

# 令和8年3月5日会議概要

## 第1 日時

令和8年3月5日（木）午前9時10分から午前11時45分までの間

## 第2 出席者

池坊委員長、森委員、在田委員

警察本部長、総務部長、警務部長、生活安全部長、地域部長、刑事部長、交通部長、警備部長、サイバー対策本部長、京都市警察部長、情報通信部長等

《書記 公安委員会補佐室長、公安委員会補佐室室長補佐》

## 第3 議事の概要

### 1 委員報告

#### (1) 京都市警察部視察（2月26日）

委員から、「3月中旬から運用開始される京都府警察街頭防犯カメラネットワークシステムを視察した。プライバシー保護に配慮しながら、適切に運用していただきたい。」旨、発言があった。

#### (2) 司法面接室視察（2月26日）

委員から、「部屋の中は明るく、温かみがあり、子どもたちが話しやすいようにと、非常に良く考えられて作られていると感じた。」「子どもたちが安心して、自分の言葉で話せるような環境づくりを引き続き続けてほしい。」旨、発言があった。

#### (3) 保護司選考会（3月4日）

委員から、「保護司が担い手不足の中、今回、幅広い世代が登録されたのは、ありがたいと感じた。」旨、発言があった。

### 2 議題

#### (1) 京都府警察におけるDX推進基本戦略の策定について

総務部長から、警察業務のDXに向けた全警察職員の意識の共有化を図り、DX推進施策を加速化するため、指針となるDX推進基本戦略（E-p-o-c-h戦略）を策定する旨、報告があった。

同指針は、計画的な情報システムの合理化・最適化、生成AI等の先端技術やデジタル技術の利活用の促進等による「業務の合理化、高度化」、京都府情報セキュリティポリシーの順守等による「情報セキュリティの確保」、デジタル人材の確保・育成、全警察職員のITリテラシーの向上等による「DX推進に必要な人的基盤の確立」の3つの柱から成り、これに基づき戦略的な取組を推進していく旨、説明があった。

委員から「新たな戦略を行うには、全職員が意識を共有して実践できるかが重要であるが、浸透するために教養は行うのか。」旨、質問があり、総務部長から、「様々な機会を活用した教養の実施やツールの利活用を通して、全職員の意識改革を進めていく。」旨、回答があった。

#### (2) 令和7年中の広聴事案の受理状況について

総務部長から、令和7年中の広聴事案の受理状況について報告があった。

広聴事案とは、苦情、要望意見、感謝・激励、事件情報等であり、令和7年中の受理総数は2,175件と令和6年より164件増加したこと、その内、警察宛での苦情の主な内容は、交通取締りに関するもの、110番臨場時の警察官の対応に関するもの、警ら中の警察官の交通違反に関するものが多い旨、説明があった。

### (3) 京都府左京警察署開署式の開催について

警務部長から、本年3月26日、当府警察本部において、左京警察署開署式を開催することについて報告があり、新庁舎については、令和13年度以降に完成予定である旨、説明があった。

委員から、「新庁舎が完成するまでの間、二庁舎で運営するが、府民が戸惑うことがないようにしっかり周知を図っていただきたい。」旨、発言があった。

### (4) 若手警察官の育成に関する取組の充実強化について

警務部長から、若手警察官の育成に関する取組の充実強化について報告があった。

昨年、若手警察官職員の指導にあたる職員を対象にアンケート調査を実施したところ、指導方法や若手警察職員とのコミュニケーション方法について、指導者が不安や悩みを抱えている現状が判明したことから、育成に関する基本理念の制定、学校教官や指導者への適任者の任用、時代に応じた採用時教養の推進、民間の知見を活かした指導者の育成能力の向上、指導者を対象とした相談窓口の新設及び指導者に対する表彰等を実施することについて説明があった。

委員から、「指導者が若手と一緒に考えてみる、若手に考えさせるなど若手警察職員の自立を促す必要があるが、年齢差が大きいとコミュニケーションが取れず何も言えない状況になりがちであるので、少し年上の先輩が細やかに教える取組も今後検討されてみてはどうか。」「民間の知見を活用する方針は非常に有益であり大変良いことだと思う。」「相談窓口の新設とともに、若手警察官に寄り添うような支援を充実していただきたい。」旨、発言があった。

### (5) 令和7年中の少年非行及び子供の性被害の状況について（確定値）

生活安全部長から、令和7年中の少年非行及び子供の性被害の状況について報告があった。非行少年の検挙・補導状況は、前年比+122人の920人と平成30年の水準まで増加し、傾向として、刑法犯での検挙・補導総数は3年連続で増加していること、補導された触法少年は285人で、前年比+89人と増加が顕著である旨の説明があった。続いて、子供の性被害の状況として不同意わいせつ等の被害児童数（18歳未満）は92人で、過去5年でみると増加傾向であること、また、匿名・流動型犯罪グループの一員として犯罪に関与した25人の少年を検挙した旨の説明があり、これらの状況を受け、本年の取組として、繁華街等を中心とした街頭補導活動、非行防止教室・薬物乱用防止教室の推進、SNSを通じた情報発信等の取組を推進していく旨、説明があった。

委員から、「刑法犯で補導された触法少年が3年連続増加しているのは憂慮すべき事態である。予備軍として深夜徘徊や飲酒、喫煙等も増加していると聞いているので、地域と一体となって取り組む必要がある。」「犯罪が低年齢化しているが、小学生の教諭は生徒指導について知見がないため、補導連絡協議会議等で警察から情報提供をしていただきたい。」旨、発言があった。

### (6) 山科区における住居侵入・強盗殺人被疑事件の検挙について

刑事部長から、捜査第一課及び山科警察署は、令和7年10月1日、山科区内で発生した住居侵入・強盗殺人事件について、本年2月26日、当該被疑者を逮捕した旨、報告があった。

#### (7) 天皇盃第37回全国車いす駅伝競走大会に伴う交通対策の実施について

交通部長から、本年3月8日実施される天皇盃第37回全国車いす駅伝競走大会に伴う交通対策について報告があった。

当日は、交通管制センターに交通部長を長とする対策本部を設置し、警察官約460人で車両の通行止め等の交通規制を行い、主催者側の警備員等約1,200人と共に走路の安全確保に当たる旨、説明があった。

委員から、「国内唯一の大会であり、インクルーシブ社会の実現という意味でも有意義であるので、安全に配慮した交通対策をよろしく願う。」旨、発言があった。

#### (8) マイナ免許証制度と外免切替制度の運用状況について

交通部長から、マイナ免許証制度について報告があり、京都のマイナ免許証の保有者数は、約4万3,000人で、免許保有者数に占めるマイナ免許率は2.82%と全国的に平均である旨、説明があった。

また、令和7年10月1日から見直しが始まった外国で取得した運転免許を日本の運転免許に切り替える外免切替手続の運用状況について報告があり、見直し後は知識確認通過率、技能確認通過率ともに減少している旨、説明があった。

### 3 聴聞等

#### 運転免許関係行政処分について

運転免許試験課交通部聴聞官から、道路交通法の規定に基づく運転免許の行政処分に係る聴聞、意見聴取の結果について説明があり、19件の行政処分を審議した。

### 4 個別決裁

#### (1) 特定抗争指定暴力団等（六代目山口組・絆會）の指定期限の延長について

捜査第四課主席調査官から、指定暴力団六代目山口組及び指定暴力団絆會を特定抗争指定暴力団等として指定期限を延長する必要性について説明があり、審議の上、延長を決定した。

#### (2) 京都府公安委員会に対する審査請求の裁決について

監察官室訟務官から、放置違反金納付命令処分を受けた者から、原処分を不服として審査請求がなされたことに伴い、審査請求の概要等について説明があり、審議の上、審査請求の棄却を決定した。

#### (3) 公安委員会宛て苦情について（処理1件、意見要望2件）

公安委員会補佐室室長補佐から、過日受理した公安委員会宛ての苦情申出に関して、調査結果及び通知案の説明があり、審議の上、処理方針を決定した。また、公安委員会宛ての意見要望2件の報告があり、処理方針を決定した。

### 5 個別報告

#### (1) 公益通報案件について

広報応接課担当補佐から、公益通報者保護法に関する報告があった。

**(2) 人事案件**

警務部長から、人事案件について説明があり、審議の上、了承した。

**(3) 損害賠償請求控訴事件の発生及び応訴について**

監察官室訟務官から、令和7年12月12日、京都府を被控訴人とする損害賠償請求控訴事件が大阪高等裁判所に提起された（控訴状到達日は、本年2月20日）ことに伴い、棄却を求めて応訴する旨、報告があった。

**(4) 令和7年中の防犯カメラ捜査支援の概要について**

犯罪情報分析課長から、令和7年中の防犯カメラ捜査支援の概要について報告があった。

**(5) 当面の行事予定等について**

公安委員会補佐室長から、次回の公安委員会定例会議及び出席予定行事等について報告があった。